

『琉球教育』の後継誌である本誌は
教育や文化に限らず、
広く沖縄近代史の基礎的史料である。
新規発掘号を多数収録して復刻！

沖縄県教育会／沖縄教育会 発行

沖縄教育

復刻版

1906年～1944年

全37巻・別冊1



B4判・A5判／上製／総約三三二〇〇ページ

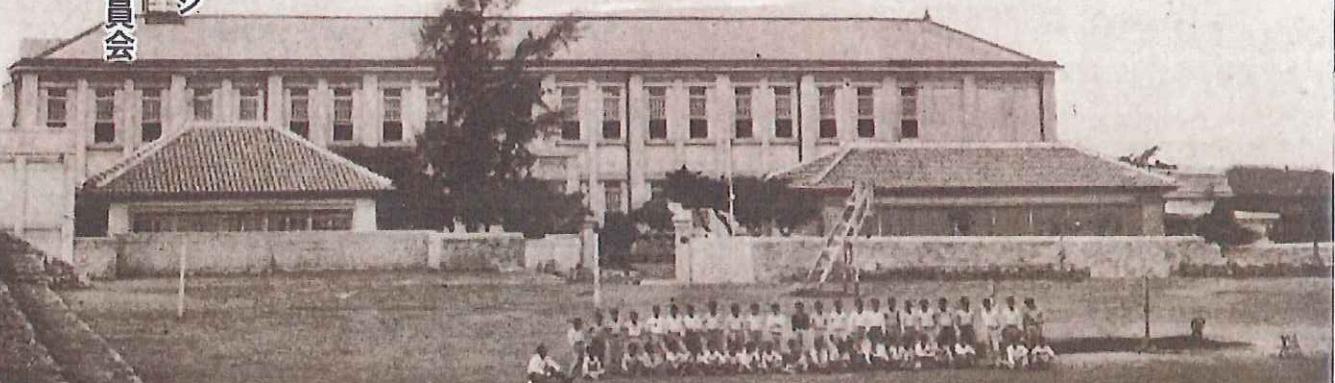
編集 『沖縄教育』復刻刊行委員会

解説 藤澤健一、近藤健二郎、

梶村光郎、三島わかな

各配本定価 本体90、000円＋税（全6回配本）

第1回配本 2009年11月刊行



戦前期沖繩における教育誌『沖繩教育』は、一九〇六年三月に第一号が刊行された。発行所は沖繩教育会(のちに沖繩県教育会)。当初は月刊を目指したが、一時期には隔月など不定期刊となったようである。終刊は不明であるが、一九四四年二月刊の第三一八号を数えることができる。ただこの間の未発見号も少なくない。現在では全冊のうち、およそ半数強が確認されている。

本誌は前誌『琉球教育』とならんで、近代沖繩における教育と文化の史実を解き明かす上で、質量ともに最も重要な史料である。『琉球教育』については、すでにハワイ大学ホーレー文庫所蔵版などをもとに復刻され、研究者・市民にひろく利用がなされてきた。しかし、『沖繩教育』については、その散逸状況が著しく、加えて原本を所蔵する機関が全国に散在することから、史料の通覧すら難しい状況にあった。こうした困難な状況は、沖繩というひとつの地域にとっただけではなく、広く日本社会にとっ、無視できない損失であるといえよう。

このたびの復刻は、現存する原本をあまねく活用し、解説および総目次・索引などを併せて提供することで、研究者だけではなく、自らの歴史的な足場を確かめようとする市民にとっ、画期をなす事業となるであろう。姉妹誌にあたる『高尻教育』と『八重山教育』の二冊ほかを付録として収録し、刊行する次第である。

『沖繩教育』復刻刊行委員会(代表 藤澤健一)

●『沖繩教育』復刻刊行委員会
編集責任者 藤澤健一(代表)、近藤健一郎、梶村光郎、三島わか、船橋治
編集協力者 納富香織、照屋信治
賛同者 新崎盛輝、石堂徳一、江崎公子、大山伸子、加藤彰彦、金城厚、久万田晋、里井洋一、佐野靖、仲宗根将一、中村透、波照間永吉、比嘉悦子、藤原幸男、宮城晴美、吉浜忍

論説

沖繩に於ける地勢と人文の交渉

鳥袋源一郎

ラツチエル氏曰く、「人間の全歴史は土地に發達し、而して土地と共に發達す」と、然り、人類が地球生存の舞臺として活躍する限り、集合種族、榮枯盛衰、治亂興亡皆是れ地上の出来事であり、しかも亦獸々の中に變化極まりなき土地の形勢を受けつゝ一定の法則に向つて其の發達を期してゐるのは明かな事實である。抑も人類は蒙昧未開の時代より文化繁栄たる今日に至る迄其の生存の爲めに全地球を利用し、宇宙萬物を擧げて其の生活の方便に供してゐる。然るに萬物の靈長として大自然を征服してゐる人間も、一面亦絶えず大自然の制約を受け、常に之に抵抗し、之と相戦つて其の生存を完うしてゐるに過ぎない。春夏秋冬、寒暑雨露露霜自然の變化にも急變する人間の流動的心情であるから、殊に朝夕其の定住せる自然の支配を受けるは理の當然である。而して自然の相違は其の地勢及び地形に原由すること多く、隨つて地勢の高低等山姿水容は人間生活の各方面に直接間接の影響を及ぼし、其の抱擁する住民の性情に偉大なる感化を興ふるは疑を拵むべからざることである。

詩二篇

まひる 山之口 猿

乾燥した城趾の裏路の日向
クロバイの汚れた白い服があらはれ
苦熱のまんなかにあらはれ
サーベルの音が蟻のやうに溶け
私のまつげには
軽蔑と憎悪とがぶらさがり
さてー
嗜眠性肺炎に使された太陽の看護には
ころころ 匍いて

人生と食後

横走る蟹のやうに、
四辻の
交番にばつたり突きあつたのが
足の太い。
年増の女だ。
氣まづい金借り労働と
勇敢な食事労働と
おもたい溜息の労働とは
人生の理論となり
食後の
昏間！
亂暴人と旅人との人生観が消え
未練もなくさろんと消え
天井からは
無欲がおつこちて

目次

人格教育の高潮……………巻頭言……………一
論説
沖繩に於ける地勢と人文の交渉……………鳥袋源一郎……………二
字に於ける教育革新の實際……………兼城……………三
詩人ブクシングのごとく……………松根……………四
女子体育に就いて……………賀省……………五
盛島製方とロイド、デョージ……………伊波……………六
研究
標準語と沖繩語との對照研究……………桑江……………七
教生を如何にして指導するか……………大城……………八
米法度量衡材料の取扱……………中頭郡第四區研究会……………九
想華……………勢理……………十
人魚の誘惑(兼詩題)……………勢理……………十一

短歌

兄等歸……………川島……………一
食後雜話……………川島……………二
雜纂……………川島……………三
異郷の友へ……………山……………四
會報……………山……………五
創作展覽會印象記……………山……………六
オリンピック大會記事……………山……………七
學務だより……………山……………八
叙任辭令……………山……………九
教育會規則……………山……………十
御寄稿者住所……………山……………十一
編輯錄……………山……………十二
琉球史講話……………東恩納……………十三

●本復刻版に収録した『沖繩教育』原本一覧

| 年月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|
| 1906(明治39)年 | | | 1 | 2 | | | | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 1907(明治40)年 | 11 | 12 | 13 | | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | |
| 1908(明治41)年 | | | | | | | | | 31 | | | |
| 1909(明治42)年 | | | | 36 | | | | | | | | |
| 1910(明治43)年 | 45 | | 47 | | | | | | 53 | | 55 | |
| 1911(明治44)年 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 |
| 1912(明治45)年 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | | 75 | 76 | | 78 | | 80 |
| 1913(大正2)年 | | 82 | | | 85 | | 87 | 88 | | 90 | | 92 |
| 1914(大正3)年 | 93 | 94 | 95 | | | | 97 | | 98 | | 99 | |
| 1915(大正4)年 | 100 | | | | | | 102 | | 103 | | 104 | |
| 1916(大正5)年 | | | | | 105 | | 106 | | 107 | | | |
| 1917(大正6)年 | 109 | | | | 111 | | | | | | | |
| 1918(大正7)年 | | | | | | | | | | | 115 | |
| 1919(大正8)年 | | | | | | | | | | | | |
| 1920(大正9)年 | | | | | | | | | | | | |
| 1921(大正10)年 | | | | | | | | | | | | |
| 1922(大正11)年 | | | | | | | | | 臨時号 | 記念号 | | |
| 1923(大正12)年 | | | | | | | | | | | 130 | 131 |
| 1924(大正13)年 | 132 | 133 | | 135 | 136 | 137 | 138 | | 140 | 141/139 | 142 | 143 |
| 1925(大正14)年 | 144 | | | 145 | | 146 | | | 147 | | | 149 |
| 1926(大正15)年 | 150 | 151 | | | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 | |
| 1927(昭和2)年 | | 160 | | 161 | 162/163 | | 163 | 164 | | 165 | | 166 |
| 1928(昭和3)年 | | | | | | | | | 169 | | | |
| 1929(昭和4)年 | | | 174 | | | | 177 | 178 | | | | |
| 1930(昭和5)年 | | | | 182 | | 183 | | | | | | 186 |
| 1931(昭和6)年 | | 187 | | 188 | | 189 | | 190 | | 191 | | 192 |
| 1932(昭和7)年 | | 193 | | 194 | | 195 | | 196 | | | | |
| 1933(昭和8)年 | 198 | 199 | | 200 | 201 | | | 204 | 205 | | | |
| 1934(昭和9)年 | | | | | | 214 | | | | | | |
| 1935(昭和10)年 | | | | 224 | | | | 228 | | 230 | 231 | |
| 1936(昭和11)年 | 233 | | 235 | 236 | 237 | 238 | 239 | 240 | 241 | 242 | 243 | 244 |
| 1937(昭和12)年 | 245 | | 247 | 248 | 249 | 250 | 251 | | | 254 | | 256 |
| 1938(昭和13)年 | | | | | | | | | | | | |
| 1939(昭和14)年 | 269 | | | | 273 | 274 | 275 | 276 | 277 | 278 | | |
| 1940(昭和15)年 | 281 | | 283 | | 285 | | 287 | 288 | | | 291 | |
| 1941(昭和16)年 | | | | | | | 298 | | | | 303 | 304 |
| 1942(昭和17)年 | | 306 | | | 308 | 309 | | 311 | | | | |
| 1943(昭和18)年 | | | | | 318 | | | | | | | |
| 1944(昭和19)年 | | 328 | | | | | | | | | | |

※ 囲みは特集号を示す。

『沖縄教育』覆刻と沖縄教育史研究の進展とは相即不離

逸見勝亮（北海道大学理事、前教育史学会代表理事）

都道府県教育史研究にとって、教育会機関誌が不可欠の資料であることに多言を要しない。周知のように、沖縄県公文書をはじめとする文書資料の大部分を、沖縄戦の業火が奪った。従って、沖縄県においては、教育会機関誌が他の地域と比較にならないほど重要な資料的価値を有している。

『沖縄教育』掲載記事は、沖縄教育会の諸活動（大会・講演会・教員資格講習）、県当局者・教育界指導層の言説、小学校長会の動静、小学校・中等学校・師範学校における教育活動・管理状況報告など、「本土」道府県教育会と共通している。同時に、「方言矯正」・「普通語の励

行」、琉装の禁止、和服・洋服の奨励など、言語風俗の「改良」・「大和化」を小学校教員と教育会が担ったという沖縄県の特徴を示す資料群である。また、「大和化」に抗う、あるいは「大和化」を通じて「大和」と立ち並ぼうとする「沖縄人」の心性を手繰る資料群でもある。

このたびの覆刻は、沖縄教育史研究の進展と相即不離であり、研究の深化が資料の発掘を促した好例の一例である。「第三〇号までは仮綴雑誌の体裁だったこともあって、現在、所在はまったく不詳。その後の雑誌も戦災などのためにかなり散逸。」（阿波根直誠、一九八三年）との叫びにも近い状況は、一気に前進した。

地域史の貴重な資料——意義深い『沖縄教育』の復刻——

三木 健（石垣市史・竹富町史両編集委員会委員、沖縄・八重山文化研究会会長）

『沖縄教育』は、戦前の沖縄教育会が刊行した教育雑誌である。第一号は一九〇六（明治三九）年に刊行され、一九四四（昭和一九）年頃に終刊している。滔々たる皇民化教育の中で、当時の教育者たちは何を考え、行動しようとしていたのか、近代沖縄の指導層の考えを知る貴重な資料群である。

教育雑誌であるから、当然こうした教育に関する論説や資料、情報を中心であるが、しかし、一般的な雑誌のなかった当時の事情を反映し、教育のみならず、広く一般社会の記事や文章も扱っていた。

私は戦前、西表島にあった炭坑の私立学校のことを調べたとき、これに関する資料が何処にもなく困ったが、沖縄県立第一高等女学校の教師だった鎌倉芳太郎が、昭和二年に「私立琉球炭鉱尋常小学校參觀記」という一文を写真と共に載せているのを見つけ、活用したことがある。

また、「近代沖縄音楽の父」と称される沖縄県師範学校の教師・宮良長包の評伝を執筆したときにも、長包自身の書いた音楽論や教育論を『沖縄教育』の中から見つけ出し、大いに活用したものである。

このように『沖縄教育』は、地域史研究にとっても貴重な資料であるにもかかわらず、あまり活用されてきたとは言えない。それは同誌が戦災などもあって散逸し、原本の所在が不明ということがあった。そのうえ、現存する号についても複製本がなく、わざわざ原本所有者のところへ足を運ばなければならない、という不便な事情があった。

今回、現存する各号の所在がすべて確認され、これが不二出版より刊行されることになったことは、教育関係者にとり、地域史に関心を寄せる人々にとっても喜ばしいことである。自治体による地域史編纂の関係者や、多くの公共機関に推薦する次第である。

教育史、近代史、植民地史研究の第一級資料

屋嘉比収（沖縄大学法経学部准教授）

近代沖縄教育史が沖縄近代史に占める意義はさきわめて大きい。そのことは、日本政府の施策において、沖縄を日本へ同化させるため、教育関係だけが他の領域とは異なりいち早く施行された事実が端的に示している。したがって、沖縄近代史を学ぶためにも、近代沖縄教育史を理解することはことさら重要となる。

『沖縄教育』は、近代沖縄教育史研究のための第一級の資料である。同時に、近代沖縄において最も長期間にわたり刊行された機関誌でもあり、その情報量は沖縄近代史研究のためにも欠くことのできない重要な史料の一つである。『沖縄教育』の復刻は、教育史研究に止まらず、近代沖縄史研究において圧倒的な意義をもつことは間違いない。

また、近代沖縄教育史研究は、帝国日本の植民地教育研究を考えるうえで特異な位置を占めている。近代沖縄は、法制度では内地に属していたとはいえ、同化政策における文化統合の策として、外地である植民地地域と類縁性をもつ施策が強制された。

『沖縄教育』に収録された論考や記事は、植民地教育研究における同化政策での文化統合を検討するさいにも、近代沖縄の事例として多大な情報と参照を与えることであろう。



※写真は『姫百合のかをり』姫百合会発行（昭和12年刊）より転載。

「宮古算法」に就いて (上)

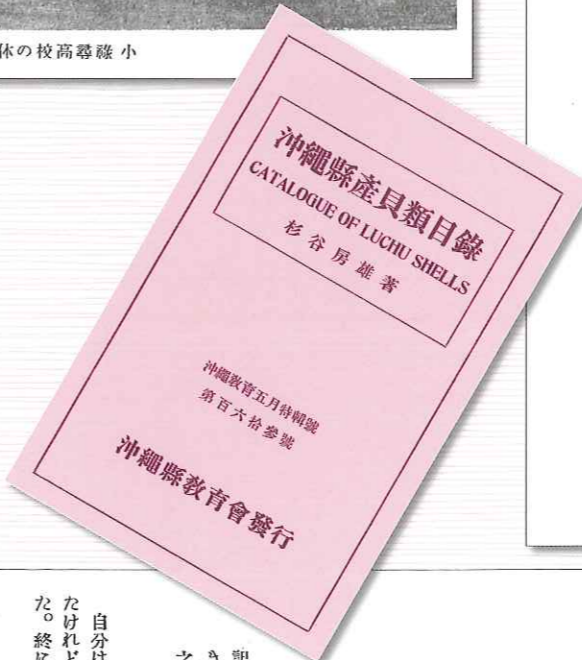
宮古高等學校教授 須藤利一

頃日、宮古中校山城盛貞氏の御好意により、「宮古算法」と題する算本の写本を得た。同校の吹野氏の御解説に由ると原本は、平良町宇東仲宗根出身の平良安助氏(弘化元年—明治四十五年)の書き残されたものである。平良氏は算法的才能に富み、殿元(のちの)東山として、土木や納税事務に關係された人であるとの事である。さて、山城校長から去年此の写本を頂戴した時、批評を求めたが、一應内容の研究をした上でなければ、この事は出さぬことであるので、その後、公務の隙を見て、ぼつぼつ読んで見たのである。元來此の如き種の算用數學は、純粹に數學的立場から研究するだけでは、學問的にも實際的にも大した意味も効果も期待出来ぬのであつて、只此の限りに於ては、「宮古算法」の内容の検討は、さまで困難であるとは云へないのであるが(尤も吾々の研究の第一歩は勿論具體的な算術的検討から始まらねばならぬことは明であるが)此の程度で満足せず、社會的歴史的なもの、把握にまで進まなければならぬと思ふのである。かうした意圖で、研究をすれば從來発見されてゐる數種の算法書も、將來見られるであらうものも、單に數學に直接關係のある人士の興味や研究の對象に局限されず、文化の進展に關心を持つ、あらゆる研究者に取つて重要な資料の一部となり、充分に利用されるに至るのである。しかし吾々、直接に數學に關係する者の、さし當つてなすべきことは、

一、内容の數學的研究、之と同時に、數學と關係してゐる諸事情の闡明、必要を術語、字句の研究、二、數學史的研究、例へば、當時の日本内地の和算又は支那の數學と、如何なる關係があつたか、即ち算法の系統に關する



(照參而裏) 育休の校高尋磯小



沖繩縣産貝類目録 CATALOGUE OF LUCHU SHELLS 杉谷房雄著

沖繩縣教育會發行

Table with columns for school names, locations, and staff members. Includes '沖繩縣立第一中學校' and '首里市市町志町二丁目'.

Music notation section with a title '記譜法の便宜上、調で記載したのであつて演奏者の歌の都合や室の廣狭によつて轉手を旋轉して適宜にさめてよ' and musical staves.

「うるま新報」復刻版全6巻

体裁 B4判・上製・総1,944頁
解説 新崎盛暉・丹野喜久子
本体価格 168,000円十税

「琉球新報」復刻版全27巻

体裁 B4判・上製・総9,548頁
解説 新崎盛暉
本体価格 756,000円十税(各巻28,000円十税)

「沖繩新民報・自由沖繩」復刻版全2巻

収録内容 『沖繩新民報』第1号〜第236号(1946年1月〜53年12月)
『自由沖繩』第1号〜第33号(1945年12月〜49年1月) 九州版・関西版
体裁 B4判・上製・総642頁
解説 新崎盛暉
本体価格 48,000円十税

「占領期・琉球諸島新聞集成」復刻版全16巻

収録原紙名 『宮古民友新聞』『みやこ新報』『南西新報』『海南時報』『奄美タイムス』
体裁 A4判・上製・総約6,140頁
監修 新崎盛暉
解説 仲宗根将二・大田静男・弓削政巳
本体価格 448,000円十税(各巻28,000円十税)

「南洋群島」南洋群島文化協会機関誌復刻版全26巻・別冊1

発行所 南洋協会南洋群島支部/南洋群島文化協会/南洋群島協会
収録内容 第1巻第1号(昭和10年2月)〜第9巻第10号(昭和18年12月)
体裁 A5判・上製・総約10,300頁
解説 仲程昌徳
本体価格 416,000円十税

「うるま新報」米國保護の下に 將來の獨立を希望か 米記者團知事に問ふ

「琉球新報」戸毎に日の丸掲げ 名瀬中心に祝典行事

「南洋群島」マツカサ元帥の 歸國米上院が要請

復刻版概要

◎配本一覧

| 配本 | 復刻版巻数 | 〔沖繩教育〕収録予定原本号数 | 原誌発行年月 | |
|--|-------|-----------------------------|-------------------|-------------------------|
| 第1回配本 | 第1巻 | 1、2、6～13、15～21 | 1906年3月～1907年11月 | 2009年度配本 本体90,000円＋税 |
| | 第2巻 | 31、36、45、47、53、55 | 1908年9月～1910年11月 | |
| | 第3巻 | 57～62 | 1911年1月～1911年6月 | |
| | 第4巻 | 63～68 | 1911年7月～1911年12月 | |
| | 第5巻 | 69～73、75 | 1912年1月～1912年7月 | |
| | 第6巻 | 76、78、80、82、85 | 1912年8月～1913年5月 | |
| 別冊 | | 解説・総目次・索引 | | |
| 本体90,000円＋税 2009年11月刊行 ISBN978-4-8350-6334-8 | | | | |
| 第2回配本 | 第7巻 | 87、88、90、92～95 | 1913年7月～1914年3月 | 2010年度配本 本体90,000円＋税 |
| | 第8巻 | 97～100、102 | 1914年7月～1915年7月 | |
| | 第9巻 | 103～107 | 1915年9月～1916年9月 | |
| | 第10巻 | 109、111、115、130、131 | 1917年1月～1923年12月 | |
| | 第11巻 | 132、133、135 | 1924年1月～1924年4月 | |
| | 第12巻 | 136～138、140 | 1924年5月～1924年9月 | |
| 本体90,000円＋税 2010年5月刊行 ISBN978-4-8350-6342-3 | | | | |
| 第3回配本 | 第13巻 | 141～143 | 1924年10月～1924年12月 | 180,000円 |
| | 第14巻 | 144～146 | 1925年1月～1925年6月 | |
| | 第15巻 | 147、149～151 | 1925年9月～1926年2月 | |
| | 第16巻 | 152～154、156 | 1926年5月～1926年9月 | |
| | 第17巻 | 157、158、160～162 | 1926年10月～1927年5月 | |
| | 第18巻 | 163～166 | 1927年7月～1927年12月 | |
| 本体90,000円＋税 2010年11月刊行 ISBN978-4-8350-6349-2 | | | | |
| 第4回配本 | 第19巻 | 169、174 | 1928年9月～1929年3月 | 2011年度配本 180,000円 |
| | 第20巻 | 177、182、183 | 1929年7月～1930年6月 | |
| | 第21巻 | 186～189 | 1930年12月～1931年6月 | |
| | 第22巻 | 190～194 | 1931年8月～1932年4月 | |
| | 第23巻 | 195、196、198、199 | 1932年6月～1933年2月 | |
| | 第24巻 | 200、201、204、205 | 1933年4月～1933年9月 | |
| 本体90,000円＋税 2011年5月刊行 ISBN978-4-8350-6356-0 | | | | |
| 第5回配本 | 第25巻 | 214、224、228、230 | 1934年6月～1935年10月 | 2012年度配本 90,000円 |
| | 第26巻 | 231、233、235、236 | 1935年11月～1936年4月 | |
| | 第27巻 | 237～240 | 1936年5月～1936年8月 | |
| | 第28巻 | 241～244 | 1936年9月～1936年12月 | |
| | 第29巻 | 245、247～249 | 1937年1月～1937年5月 | |
| | 第30巻 | 250、251、254、256 | 1937年6月～1937年12月 | |
| 本体90,000円＋税 2011年11月刊行 ISBN978-4-8350-6363-8 | | | | |
| 第6回配本 | 第31巻 | 269、273～276 | 1939年1月～1939年8月 | 2012年度配本 90,000円 |
| | 第32巻 | 277、278、281、283、285 | 1939年9月～1940年5月 | |
| | 第33巻 | 287、288、291、298、303、304、306 | 1940年7月～1942年2月 | |
| | 第34巻 | 308、309、311、318、328 | 1942年4月～1944年2月 | |
| | 第35巻 | 139号(特集号「沖繩植物総目録」) | 1924年10月 | |
| | | 155号(特集号「琉球植物帯」) | 1926年8月 | |
| | | 163号(特集号「沖繩県産貝類目録」) | 1927年5月 | |
| | | 178号(沖繩県学事関係職員録) | 1929年8月 | |
| | 第36巻 | 臨時号 | 1922年9月 | |
| | | 学制頒布五十年記念号 | 1922年10月 | |
| 付録1＝「島尻教育」 | | 1912年3月 | | |
| 付録2＝「八重山教育」(第1号) | | 1927年11月 | | |
| 本体90,000円＋税 2012年5月刊行 ISBN978-4-8350-6370-6 | | | | |

沖繩教育

復刻版 全37巻 別冊1

- ◎収録原本——「沖繩教育」第1号～第32号
「島尻教育」
「八重山教育」第1号〔第36巻に付録として収録〕
- ◎編集——「沖繩教育」復刻刊行委員会(代表 藤澤健一)
- ◎体裁——B4判(第1巻のみ)、A5判、上製、総約13,200頁
- ◎別冊——解説・総目次・索引
*別冊のみ分売可 2,000円＋税 ISBN978-4-8350-6341-6
- ◎揃価——本体価格540,000円＋税
(各配本定価 本体価格90,000円＋税)
- ◎推薦——逸見勝亮・三木健・屋嘉比収
- ◎解説——藤澤健一(福岡県立大学、近藤健一郎(北海道大学)、
梶村光郎(東邦大学)、三島わか(沖繩県立芸術大学、非常勤講師)
- ◎編集協力——納富香織(沖繩国際大学南島文化研究所特別研究員)、
照屋信治(京都大学大学院生)
- ◎原本提供——琉球大学図書館、沖繩国際大学、沖繩県立博物館・美術館、
沖繩県教育委員会(史料編集室)、沖繩県公文書館、沖繩県
立図書館、那覇市歴史博物館、瀬名波長宏氏、他

※表紙の写真は戦前期の沖繩県立第一中学校。〔沖繩県人物風景写真帖〕同刊行会発行(昭和8年刊)より転載。

※第37巻(補遺、184号、253号)は第6回配本に含まれます。

●表示価格はすべて税別。

不二出版
 〒113-0023
 東京都文京区向丘1-2-12
 電話 03-3812-4433
 ファクシ 03-3812-4464
 振替 001600294084